



東小だより

ともに伸びる 元気な子ども since 2018

新発田市立東小学校

令和8年4月20日

令和8年度 第1号

<http://higashi-e.shibata.ed.jp/>

見えないところに、色がある

校長 五十嵐 潤



春を迎え、校庭の桜がやわらかな花を咲かせています。子どもたちも一つ上の学年へと進み、新しい毎日が始まりました。桜の下でのこの始まりの風景は、何度見ても心を整えてくれるものです。

さて、桜といえば、あの淡いピンク色の花びらを思い浮かべる方が多いと思います。しかし実は、桜の色は花びらだけにあるではありません。古くから日本では、「桜染め」といって、花ではなく、木の皮や枝から色を取り出して布を染める技法が伝えられてきました。そこから生まれる色は、いわゆる華やかなピンクとは少し違う、やさしく落ち着いた色合いになります。

満開の桜を見ていると、あたり一面が薄いピンクに見えますが、一枚一枚の花びらをよく見ると、実は白に近いものも多くあります。なぜ、あれほど美しい色に見えるのでしょうか。それは、たくさんの花が重なり合い、光を受け、空の色や周囲の景色と溶け合うことで、はじめてあの「桜色」が生まれているからだと言われています。一つ一つだけでは気付きにくいものが集まり、重なり合うことで、新しい価値や美しさを生み出していく。そこに、桜のもう一つの魅力があるように思います。

子どもたちも同じです。一人一人は、それぞれに違ったよさや力をもっています。しかし、そのよさは、ときに自分では気付きにくいものでもあります。友だちと関わり、学び合い、支え合う中で、そのよさが引き出され、重なり合い、やがて学級や学校全体としての大きな力となっていきます。

また、桜染めのように外からは見えにくい部分にこそ、本当の色や力が宿っていることもあります。日々の努力、あいさつ、思いやり、挑戦する心……、そうした積み重ねはすぐに目立つものではありませんが、確かにその人の中に色を生み出し、やがてにじみ出てきます。

本校では、そうした「見えにくいけれど大切な力」を大事にしながら、子どもたち一人一人の成長を支えてまいります。結果だけでなく、その過程や努力に目を向け、互いに認め合える学校でありたいと考えています。満開の桜もやがては散り、新しい葉を広げていきます。しかし、その営みは決して終わりではなく、次へとつながる大切な一歩です。子どもたちもまた、この一年の中で、さまざまな経験を重ねながら、自分らしい色を育んでいくことでしょう。

保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、本年度も本校の教育活動にご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。